

# PERFECT FAMILY REFUGE

by VINCENT VAN DUYSSEN

## ミラノ郊外の自然公園に佇む 家族のための隠れ家

自然に囲まれた土地で静かな時を過ごすための家を夢見ていた施主が、その思いを託したのはベルギーを拠点とする建築家、ヴィンセント・ヴァン・ドゥイセン。熱い要望に応じて彼が設計した邸宅は、ミラノ北部の緑深い土地に溶け込んでいた。

Realization FRANCESCA BENEDETTO Photo MARK SEELEN  
Cooperation GAIA MARCHESINI, GIORDANO SARNO Text CHISATO YAMASHITA



シャープな屋根のラインが  
豊かな自然と調和する

ミラノから車で1時間ほど離れた立地に  
ヴィンセント・ヴァン・ドゥイゼンが設  
計した邸宅。自然公園内の傾斜地という  
地形を生かし、建物の北側と南側を対照  
的な意匠で仕上げた。写真は北側から見  
た様子。黒いテラコッタタイルを張った  
屋根の軒にはサッサfras材を用いた。





#### 厳選したイタリアの家具をコーディネート

黒く彩色されオーク材の天井がニュートラルカラーでまとめたリビングのアクセントに。ソファはアントニオ・チッテリオがB&Bイタリアのために手がけた「アツール ソフト」。ソファの後ろにピエロ&ジャコモ・カスティオーニ兄弟によるフロスの照明「タッチア」が見える。







## 自然素材を生かしながら 色彩のバランスをキープ

キッチン&ダイニングから、寝室方向への眺め。黒いテーブルはバーバー&オズガビーがB&Bイタリアから発表した「トビイシ」。上に2つ並べて置かれた花瓶は、マーク・クルージンによるグラスイタリアの「トゥチューブ」。隣のアートピースは吉村敏治による陶芸作品。



## 自然と人間の、本来の関係性を取り戻すことができる場所です

アントワーブを拠点に世界中で活躍する建築家、ヴィンセント・ヴァン・ドゥイセン。厳密で直線的な空間構成、モノクロームのカラーパレットに代表される、彼の美意識が象徴的にちりばめられた邸宅が、ミラノの郊外に位置する自然公園の中に完成した。

### 傾斜地の特徴を逆手にとり 二つの「正面」を持つ家に

施主の夫妻は、この土地に縁がある企業家。いつかは緑に囲まれた家で、時間を気にすることのない生活を送りたいと夢見ていたという。ある日、彼らが何げなく建築雑誌を眺めていると、ヴァン・ドゥイセンがベルギーの街、クノックで手がけたヴィラに目が留まった。勾配のあるわらぶき屋根が特徴的な一軒だ。その美しい佇まいにシヨックを受けた夫妻は、早速ヴァン・ドゥイセンの事務所にコンタクトし、積年の思いを伝えることにした。

ヴァン・ドゥイセンは語る。「ここは傾斜地で、北側と南側でかなりの高低差がありました。そこで、私たちはこの住まいに『正面』を二つ設けることにしました。緑が深く低い北側はプライベート感を意識した雲囲気に仕上げています。水平方向を強調したデザインで、ひさしの下の厚みのある外壁に、大きなガラス窓を配置しました。一方、高く開けた環境にあった南側は、外構に黒いレンガを敷き詰めました」

この南側からのアプローチに彼は

もう一つ工夫を加えた。

「建物の基礎を地表面より高く設置することにより、アウトドアダイニングとしても使用できるテラスを設けることができました」

このテラスから周囲を見渡すと、シナノキや松、栗といった大木が視界を覆う。

「このプロジェクトでは、心地よい自然界の色がキャンバスとして機能してくれました。設計に際して意識したことは、周囲を取り巻く高い木々の垂直方向のラインと、建物の屋根とテラスの水平方向への張り出しとのバランスを慎重に見極めることでした。この調整を何よりも尊重し、表面的な装飾は全て排除することにしました」

室内のレイアウトは、空間のコアとしてデザインされた暖炉を擁するオープンフロアを中心に組み立てられている。収納は全て壁面と一体化し、空間をゆるやかに仕切る役割も担う。孤立した部屋をつくらず、室内のあらゆる場所に光が行きわたる、どこにいても空気の流れを感じられる間取りにした。家具は上質な自然素材を用いたカスタムメイドか、イタリア製にこだわった。忙しい日常を過ごす家族にとって、まさに非の打ちどころのない隠れ家を実現した。

「ここは、時の流れを感じさせない場所。この家で過ごす時、自然との豊かな関係性を取り戻すことができるのです」と、ヴァン・ドゥイセンは最後に付け加えた。

空間のコアとして設けた  
カスタムメイドの暖炉

ヴァン・ドゥイセンの設計による暖炉が存在感を放つオープンエリア。白、黒、木目の対比が美しい。ここを中心に、ダイニング、キッチン、リビング、寝室が配置されている。奥のリビングに見えるアームチェアは、アントニオ・チッテリオがマクサルトのために手がけた「カロス」。





## モノトーンに塗り分けられた 三角屋根の勾配

木製のベンチの上の照明はイサム・ノグチによる「アカリ」。真ちゅう製の彫刻はファウスト・メロッチェの作品だ。サイドテーブルとして使われているゼブラ柄のプフは、家主一家の思い出の品。壁面と屋根をモノトーンに塗り分けたことで、より天井の高さが強調されている。



## 建築そのものと調和する キッチンの素材使い

天井と同じオーク材とスチールを用いてオーダーメイドしたアイランドキッチン。コンロの壁面には屋外でも用いた溶岩石のタイルを採用。ヴィンセント・ヴァン・ドゥイセンによる照明「インフラストラクチャー」はフロスより。奥のダイニングエリアはテラスに直結している。





**白い壁と黒い屋根で  
風景をフレーミング**

左 外部に開かれた両側のエントランスの壁面は、積み上げたレンガを白いしっくい仕上げた。地面に敷き詰めたのは滑岩石のタイル。奥に広がるテラスのダイニングには、ピエロ・リッソーニがB&Bイタリアのためにデザインしたアウトドア家具「ボレア」をコーディネート。

**ベッドルームを彩る  
光と影のコントラスト**

左上 ダークカラーでまとめられたマスターベッドルーム。ベッドとベッドリネン、左手のアームチェア「カロス」は、マクサルトのアイテム。テラスに並んでいる大きな鉢は、ヴァン・ドゥイセンがドマーニのために手がけた「ムダ」。背の高い植物は目隠しとしても機能している。